

『鳴久者評判記』

―影印と書誌解題―

佐藤 悟

慶応元年（一八六五）十月に刊行された『鳴久者評判記』は幕末に流行した悪摺の評判記で、役者評判記の体裁に倣っている。本書に先行するものとしては文久三年（一八六三）に刊行された『三題噺作者評判記』があり、こちらはその名の通り、三題噺の作者の評判記である。悪摺はその当時の文壇や戯作者とパトロンの関係を知るための重要な資料であるが、現存するものは少なく、『年報』十六号（実践女子大学文芸資料研究所、一九九七年）掲載「調査報告 五十 『十六画漢悪縁起』影印と解題」もその一つである。この評判記で取り上げられた悪摺は現存するものがほとんどなく、関連資料も少なく、その解説には多くの困難を伴うが、幕末の文壇研究には避けて通れない資料である。

『鳴久者評判記』は活字本として徳川文芸類聚第十二『評判記』（国書刊行会、一九一四年刊）に収録され、広く知られている。ただふりがなが省略され、位付け等にも多少問題があるので、実践女子大学図書館を底本として、影印として紹介するものである。

体裁 横本一冊。黒色表紙。縦十、六糎、横十五、八糎。

構成 目録六丁。本文二十九丁、挿絵三函（四裏・五表、十一裏・十二表、十八裏・十九表）。

外題 「樂屋 鳴久者評判記 全 病名尽見立」

内題 「鳴久者評判記」

目録題 「樂屋 鳴久者評判記惣目録」

柱 「鳴久者目」「悪者」

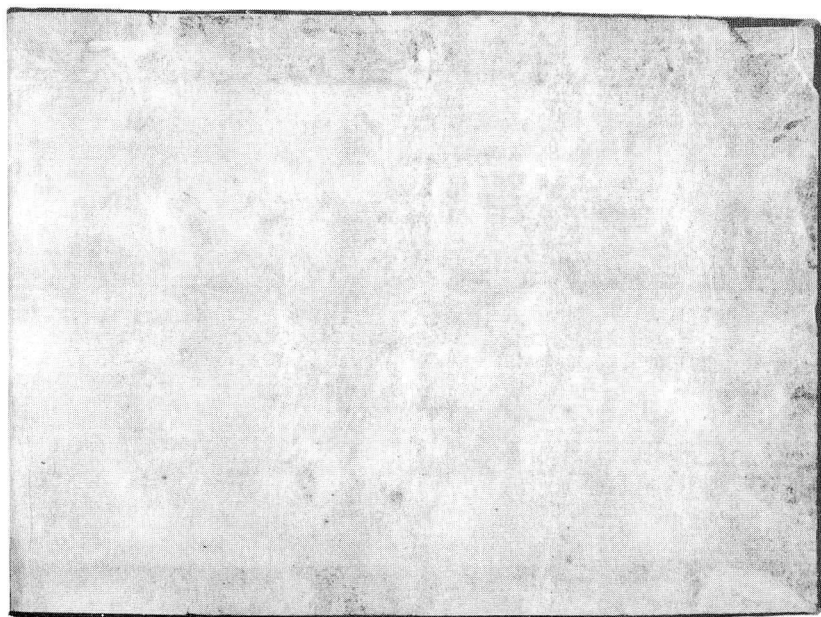
評者 悪文舎他笑

校訂 善哉亭夢窓

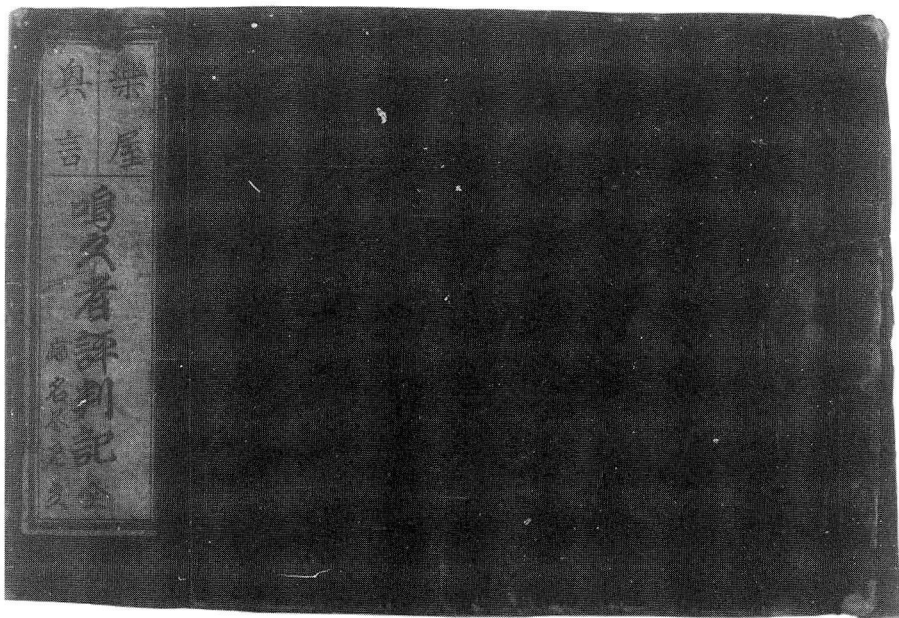
案元 悪文字屋悪左衛門

備考 「評者」「校訂」として二名の名が目録と巻末に載せられているが、これは八文字屋板の役者評判記に倣った

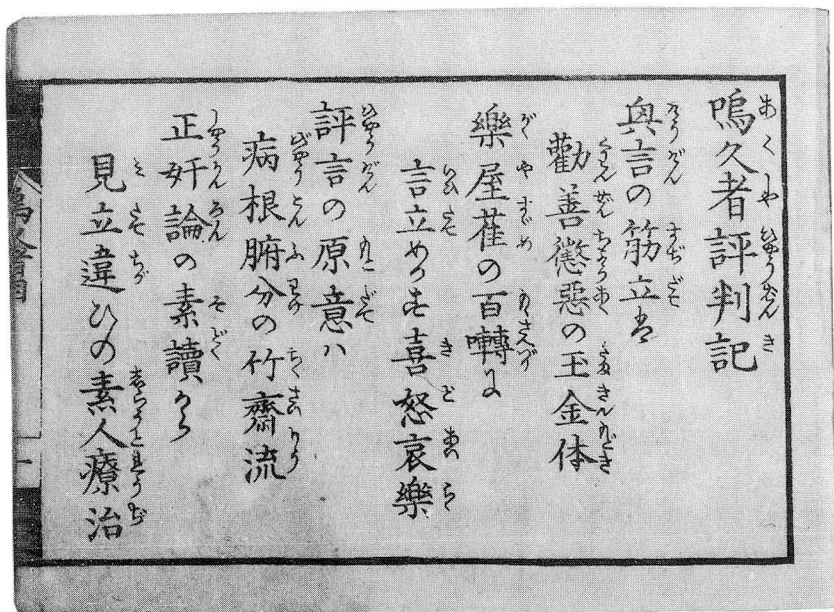
もので、実際の作者は仮名垣魯文の可能性が高い。本文二十九丁裏に「案元」とあるのが板元であろうが、これも役者評判記に倣った仮託である。また目録二丁表に「版元」として「伝馬町壱丁目 足立德三郎／松田町二丁目 染谷藤七／佐賀町三丁目 白縫功助」とあるが、これは悪摺の版元を意味するのであって、実際の版元は白縫功助こと広岡屋幸助であろう。本書の注釈は次号以降に掲載する予定である。



(表紙見返し)



(表紙)



(目1オ)

四ノ者目

作者ハ阿弥内の

誓^{ちか}と^りの^りれ^ね

宮戸川の邊に住ふ

悪文舎

他笑^(悪)

技^{わざ}訂^りハ^あ藜^{あざ}堂^{どう}の

草^{くさ}う^を連^ま中^{ちゆう}

浅草寺の麓に居る

善哉亭

夢窓^(善)

慶應元

乙丑季秋

(目1ウ)

四ノ者目

真上吉

あつみせく汗をうせる風邪

太上吉

大津イヌ^(ぬ)

六二連中の版をうを痢病

太上吉

悪玉相摸

桑西あめくおまの瘡毒

上上吉

邪魔^(ま)くら

あへくぬきおを楊梅瘡

上上吉

舌出し蛸

海をんを救彰のみの瘡

上上吉

盛衰奇術

ゆへに毒者よ者とあす残病

上上吉

團食堂

いりどめ残るに穢鬼病

上上吉

辻賣真黒

くさくさつりの草うそ

(目2ウ)

樂屋 鳴久者評判記惣目録

版元

傳馬町壹百足立德三郎

松田町三丁目 漆谷藤七

佐賀町三丁目 白縫功助

○彫刻の板面ハ持分病とよ書業
の見立草の配列左の如し

▲實惡卷頭

大極上吉 痛墮羅々真

愚者もどとあやと評判の病病

▲實惡卷軸

無類 盛、衰 競

まうん、悪い筋をむく病氣

▲實惡敵役之部

大上上吉 南子の馬鹿

性来で泡をふいてんかん

(目2才)

上上吉 破 衣

破よろろひ 眼泣や

上上士 のほら川

藤五まきとるを者かろみ

上上士 女牛の石摺

おいのろろかろろとす白

上上 小刀板木

水みろんの おろろやみ

上上 小和連物

いのちろろの 内接

▲写本實惡別座

至上吉 浴衣の道之記

お板ーさうあめく 登り丸

▲立役卷頭

至上上吉 脚色の種本

さうさうとそめく病との種分

(目3才)

大上吉 ▲立役巻軸 地獄変相
根づくとちうこふま 癩

▲立役之部

大上吉 万八番乗組 脚痺

大上吉

大はあゆ

上上吉

醒醉競

上上吉

善玉競

上上吉

安久散

上上吉

重ノ字小地獄

ちくあやまううあちうの虫

(目3ウ)

大上吉

白石くど

身の上とらふえより小送上病

大上吉

若女形娘形之部 玉梅錠

トたんきうのび 霍乱

上上吉

ふんじ洗

まこー魚のまどろ 疾

上上吉

柳の悪玉

洋人の多い辺わんのそり

上上吉

若柳

ちろつとまゑのあまう眼

▲濡事二幅對

大上吉

雨夜の封切

若草筋

よね一對の 薙魂病

(目4ウ)

上上士 あくむ石
りまきよあきき痛まひ
 上上士 鼻競連合
まろあり目よさぬん病
 上上 悪 紋 附
額 天 豹
 上 逆 馬 船
竹 馬 船
悪 玉 千 社
ひるまへあとりん
 大上上吉 穴 婦 仕 合
まよのよむやくとあたまを病恋
 ▲若女形巻軸
 ▲若女形巻軸

(目4才)

▲近則下り悪者之部
 悪 万 遍 似 夕 人 競
 伏 魔 殿 翻娘 精 推 鏡
 悪 銭 鑑 惡 玉 評判 記
 照 魔 鏡 假 名 根 本 不 忠 臣 藏
 キンクワの帳消 狂 八重菊内話
 珍 變 金 瓶 梅 惡 喜 夜 與
 見 本 大 口 記 色 破 短 哥
 不 知 假 名 盛 衰 記 狂 舌 出 志 三 馬
馬若の諸病の内考の病を之勝榮に蕉は
 追く發病を粘く見立たりあや
 ▲画工等耕彫摺技者之部
 落合 裁 以 帝 名 搦 孫 文 帝
 宮 懺 法 三 帝 野 橋 文 三
 村 川 芳 春 甘 堂 妙 藏
 大 宅 壺 次 村 搦 昌 三
 葛 瀧 為 前 清 水 柳 三

(目5才)

▲真言作者之部

三木芳盛
歌川國彦
市瀧絶豊
倭園冠旌
武田發丸
安立富安女
柳亭左乐
浦上月彦
初角女
川端狂舟
松橋大政
右田安七
初余万次常
初余友吉
柳亭桐女
奥山東玉
養茶真何の玉
園本大章
福井心彦
武田勝次

足立座

假名垣魯文
安火堂竹馬
紺全坊四得
甘教屋五郎
石井一庭
出揚扇夫
素衣魚

(目5ウ)

二世仙舟号

▲頭取之部

五石亭積丸

野善吉餘慶

春風屋藤久

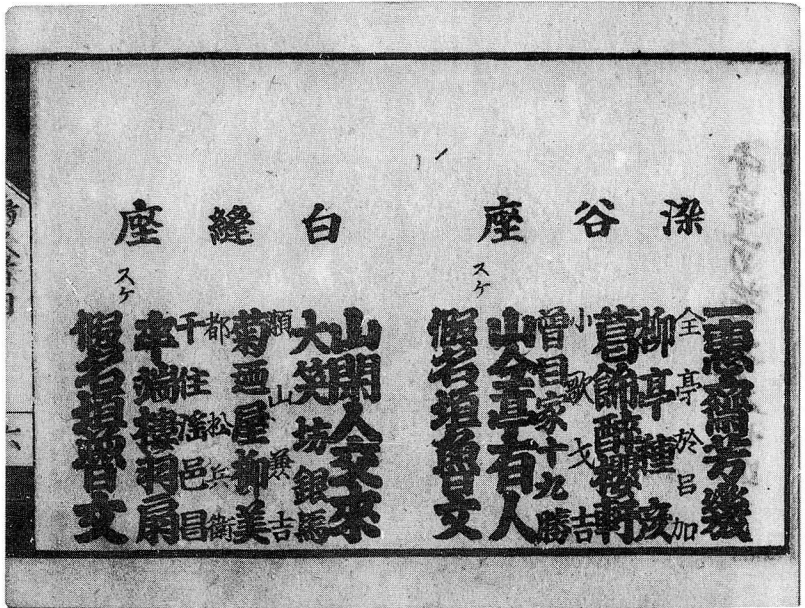
十萬桐雨

雲松蘭美庵

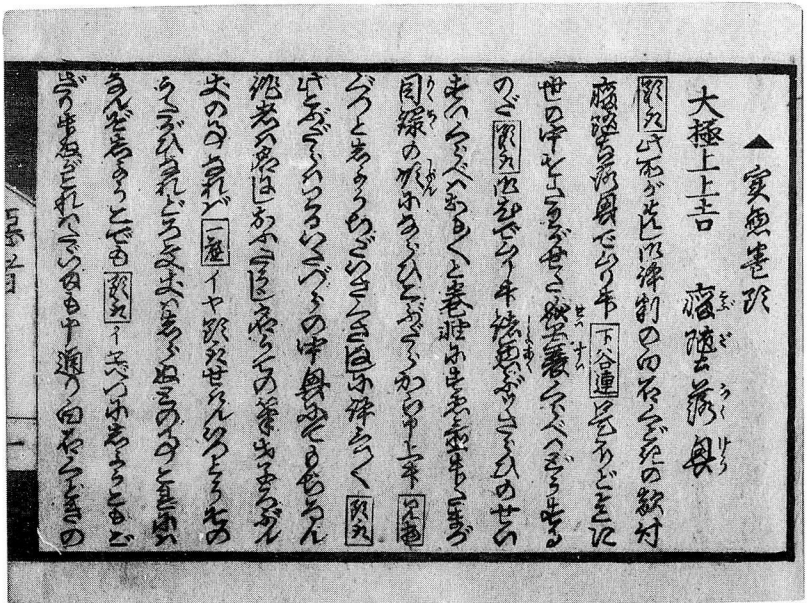
瀬川如皋
楓阿吕成
河竹其水

千早万苦本名世呼

(目6ウ)



(目6才)



(1才)

まふりくろのひかえにせりり田舎 **所考** むじまう
 二のひまらねんくのうきうきうくくくくくくくく
 白濁の二三ととめめ々々一くくくくくくくくくく
 脊の春を驚つてとと川へまへんてる肉うけの
 くのんゆのねがらまをめめめめめめめめめめめ
 かんまんのひんまんまんのひんまもわくひん一連の巻
 紋まじりの **大衆** まひまもまんがまじりまじりまじりま
 ころ **大衆** まひまもまじりまじりまじりまじりま

写かん
 至至上吉
 二やう粉

浴夜のたれ死
あつりのたれし

預 床あへくねひまうへあつりまはてつらまが
 あめまえのひまをまの秘わかとまをまう
 あつりまはてつらまがまをまをまをまをまを
 二のひまらねんくのうきうきうくくくくくくくく
 白濁の二三ととめめ々々一くくくくくくくくくく

(9ウ)

白濁がねづらぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 二のひまらねんくのうきうきうくくくくくくくく
 白濁の二三ととめめ々々一くくくくくくくくくく
 脊の春を驚つてとと川へまへんてる肉うけの
 くのんゆのねがらまをめめめめめめめめめめめ
 かんまんのひんまんまんのひんまもわくひん一連の巻
 紋まじりの **大衆** まひまもまんがまじりまじりまじりま
 ころ **大衆** まひまもまじりまじりまじりまじりま

(10ウ)

だのどいひのあんでのおちめのとてうふまじ
ゆるくは打ぶつゝの意に二十余條ありわ
とてやん合巻連ア中ふりせひのありごと
利権利権の二条がぬつゝらう利権せまの進でい
なせらふまてかへんぬらうのじませう

▲追加之儀之邪

大上吉

清濁黒白濁

取れ世のくたのやちかゝるやとすわくはくま
きやくあふむくしれ流うちと新に世に世に流
ひのきのうひのきのうにせひまんとすだづのせうふ
功功世のくたのやちかゝるやとすわくはくま
を記そとまかんお月八まんを拜し小あまをあ
まがらつとあみままがらつとあみまくまがらつとあみま
のんせうのんせうつあつたつととまがらつとあ
あまのつとまがらつとあつたつとあまのつと

(25ウ)

けふのまるとあんどつあんとあくとぬのあつと
仙果せきんじて板せつとていひのまきうと
宛かると実末まどめま材かぶれつと
後世にあらむまきと柳清のまきとあつと
かんまあふぬ人返り思案のまきとあつと
まきとあつとあつとあつとあつとあつと
まきとあつとあつとあつとあつとあつと
まきとあつとあつとあつとあつとあつと

大上吉、 謙、 吝、 行

取れ世のくたのやちかゝるやとすわくはくま
先のわくもさくさくあつとあつとあつと
花にこのあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと

(26ウ)

好^{ウツ}名^ナの^ノう^ウら^ウふ^ウを^ウ判^ハの^ノれ^レわ^レの^ノし^シよ^ヨも^モ川^カを
 卜^{ウラ}た^タむ^ムじ^ジの^ノひ^ヒに^ニウ^ウく^クひ^ヒま^マう^ウり^リま^マう^ウり^リの^ノひ^ヒの^ノひ^ヒ
 の^ノ美^ミを^ウ判^ハの^ノれ^レを^ウ知^チの^ノの^ノ返^ヘ世^セを^ウん^ンま^マう^ウり^リ
 き^キ連^レの^ノ入^イ入^イと^トあり^リの^ノひ^ヒの^ノ返^ヘ世^セを^ウん^ンま^マう^ウり^リ
 邪^ヤと^トの^ノ揚^{ヨウ}の^ノ返^ヘ世^セを^ウん^ンま^マう^ウり^リ
 播^ハの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 あ^アら^ラう^ウイ^イヨ^ヨ林^{リン}を^ウん^ンま^マう^ウり^リ

▲ 返加之部惣巻糖

大至極上吉

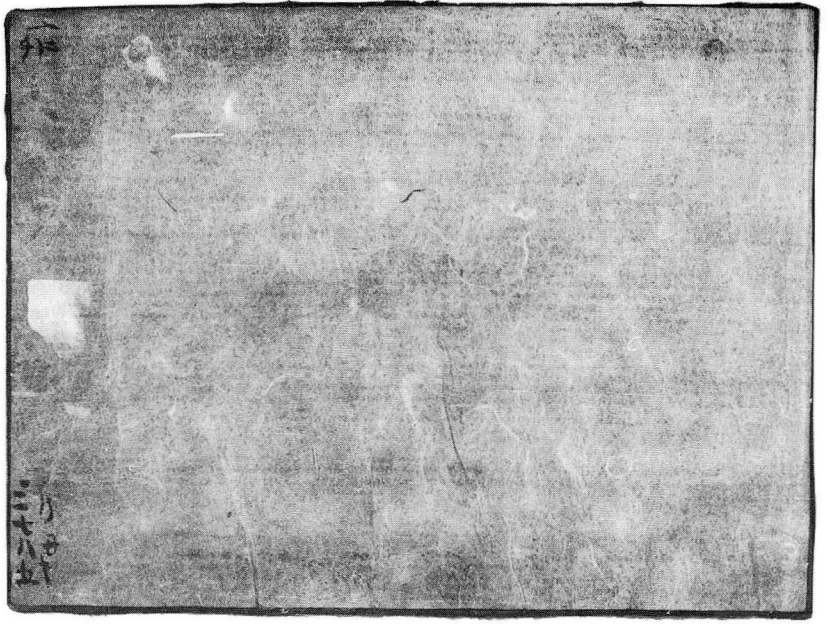
形 麿 姫 總

返^ヘ加^カの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 播^ハの^ノ世^セ治^チ治^チと^トま^マて^テ後^コ後^コの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 播^ハ入^イ保^ホ透^{トウ}上^ウ下^カの上^ウの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ

(28 才)

の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 よ^ヨい^イと^トま^マて^テの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 き^キに^ニ一^{イチ}按^アの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 小^コ男^オ麻^マの^ノ耳^{ミミ}小^コの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ
 の^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウの^ノひ^ヒの^ノう^ウら^ウふ^ウ

(29 才)



(裏表紙見返し)